

別紙1-1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 中田 有紀

論 文 題 目

インドネシアにおけるプンガジアン・クルアーン（イスラーム基礎学習）の組織化ークルアーン読誦学習テキスト『イクロ』の創案と普及に着目してー

論文審査担当者

主 査

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授	服部美奈
名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授	松下晴彦
名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授	松本麻人
名古屋大学名誉教授	西野節男

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、幼少期のムスリムが学ぶイスラーム基礎学習に着目し、歴史的に個々の地域で個別に営まれてきたイスラーム基礎学習が、インドネシアにおいて全国的に組織化されていく経緯とそれにともなう学習の変容を明らかにしたものである。分析にあたっては、『イクロ』とよばれるクルアーン読誦学習テキストの創案とその普及に着目する。イスラーム基礎学習（インドネシアではプンガジアン・クルアーンと称される）で学ばれるクルアーン読誦は、啓典の言語であるアラビア語を学び、正しくクルアーンを読誦するための学習である。アラビア語を母語としないムスリムにとってこの学習は特に重要であるが、従来の方法では習得に長い時間を要した。このクルアーン読誦学習の方法を大きく変えたのが『イクロ』であった。本論文は、『イクロ』の創案から普及に至る歴史的展開とクルアーン学習施設の全国への拡大を詳細にたどることにより、2つの主要な都市部（ジョグジャカルタとバンドン）における若者や住民主体の宗教運動がイスラーム基礎学習にもたらした変化とムスリム・ネットワークによる教育の組織化の地域的特質を明らかにしている。

「第I部 ジョグジャカルタにおけるイスラーム教育の改革」（第1章、第2章）は、『イクロ』の創案者であるアスアド・フマムが生まれ育ったジョグジャカルタにおける20世紀初頭以降のイスラーム教育改革の歴史的展開と、独立直後のジョグジャカルタにおける高等教育機関の創設と発展を考察している。

第1章は、植民地宗主国オランダによって導入された20世紀初頭以降の近代教育システムに対するプリブミ（土着の人々）の対応について、プリブミたちがイスラームの思想と伝統を維持しつつ、必要に応じて西洋式の新しい学習形態や学習方法を取り入れたことを考察している。そしてそれは、イスラーム改革派組織を率いる人々（たとえば改革派組織ムハマディヤーの創設者アフマド・ダハラン）だけでなく、伝統派の思想を重んじてきたイスラーム寄宿塾クラピヤの指導者も同様であったことが示される。つまり、ジョグジャカルタは20世紀初頭からこのような新しい教育のあり方が模索された町であったと結論づける。

第2章は、1946年の独立宣言直後から1960年代までのジョグジャカルタに焦点をあて、プリブミ・エリートによって創設されたガジャマダ大学とインドネシア・イスラーム大学について、その創設と発展の経緯を考察している。考察からは第一に、両大学が独立の象徴的な意味を付与されたシュハダ・モスクを教育施設として活用していたこと、第二に、プリブミによる高等教育機関の創設と発展は、高等教育の機会を得たムスリム学生たちに対し、モスクの創設や教育活動に深く関わる契機を与えたこと、第三に、ジョグジャカルタでは独立直後からすでに学生の教育・宗教活動が活発であったことを明らかにしている。つまり、第1章と第2章を通し

## 別紙 1 - 2

## 論文審査の結果の要旨

て、ジョグジャカルタが『イクロ』を創案する土壌を有していたことが示されている。

「第Ⅱ部 ジョグジャカルタにおける『イクロ』創案とその経緯」（第3章、第4章）では、アスアド・フマムが、若者たちとともに『イクロ』を創案し、『イクロ』を活用するクルアーン学習施設を開設する経緯（第3章）と、『イクロ』に先行して創案されたテキスト『キロアティ』との比較を通して、『イクロ』には従来のクルアーン読誦学習にはない学習者中心の指導方法が導入されていたことを明らかにしている（第4章）。

第3章は、アスアド・フマムが『イクロ』を創案し、それをを用いて教育を行うクルアーン学習施設を創設するプロセスにおいて、若者たちが重要な意味を持ったことを明らかにしている。個人のカリスマ性やリーダーシップ能力を尊重してきた伝統的なイスラーム寄宿塾における学習の伝統とは異なり、アスアド・フマムは、若者の活力と彼らがもつネットワークを生かし、それをサポートすることでクルアーン学習施設を創設し、『イクロ』を用いた新しい学習形態を創出したことが示されている。

第4章は、『イクロ』に先行して創案されたテキスト『キロアティ』と『イクロ』を比較することにより、両テキストの指導方針や教師の役割に大きな相違点があることを明らかにしている。それぞれのテキストが創案された町の地域性や創案者の学習経験を関連づけると、『キロアティ』が師から弟子への直接指導を重んじる、イスラーム学習の伝統を尊重しているのに対し、ジョグジャカルタの風土から生まれた『イクロ』は、学習者が主体的に学ぶことを奨励する特徴を有することが示されている。

「第Ⅲ部 プンガジャン・クルアーンの標準モデル構築とその経緯」（第5章、第6章、第7章）では、『イクロ』を用いるクルアーン学習施設の全国的な普及に重要な役割を果たしたインドネシア・モスク青年交流会がバンドンで結成された経緯、普及活動に多くの学生が関与したこと、さらにクルアーン学習施設における指導と運営の標準モデルが構築されたことの意義が論じられている。

第5章は、インドネシア・モスク青年交流会が1977年にバンドンで結成された社会・政治的背景として、高等教育機関における宗教教育必修化と、都市部での伝道（ダツワ）の活性化があったことを明らかにしている。同時に、インドネシア・モスク青年交流会がクルアーン学習施設の全国普及を組織全体の活動として位置づけ、それが反共産主義を標榜する当時のスハルト政権に容認されたことで、一時期衰退した組織活動を復活させた経緯が示されている。

## 論文審査の結果の要旨

第6章は、学生たちがバンドン周辺のモスクで行われる学習活動に関わったことにより、クルアーン学習施設が都市部を中心に開設された経緯を考察している。クルアーン学習施設に関する研修が各地で開催され、これに参加した学生たちによってクルアーン学習施設が開設された経緯と実態とともに、学生主体で開設されたクルアーン学習施設が時代を経て地域住民による運営形態へと変化したことを明らかにしている。

第7章は、1990年代にインドネシア・モスク青年交流会によって作成されたクルアーン学習施設の指導・運営に関する標準モデルの内容が、従来のイスラーム基礎学習の形態と大きく異なることが明らかにされている。学習指導に関しては、学びやすい柔軟な指導方法が奨励されるとともに子どもたちの学校生活に配慮した学年暦が採用され、また運営に関しては、個々のクルアーン学習施設の自律性を尊重するとともに、開設者が指導・運営の標準モデルを学ぶ機会が設けられていることが示されている。

終章は、2000年代以降、多くの民間組織が同様のクルアーン学習施設を開設するようになったことにより、政府が重要なノンフォーマル教育としてクルアーン学習施設を認識するにいたる経緯を明らかにするとともに、本論文の総括と今後の課題が提示されている。

本論文の特色と学術的意義は、以下の点である。

- (1) 先行研究でこれまで十分検討されてこなかったイスラーム基礎学習の特質と変化を詳細な分析で明らかにしている。
- (2) 現地での丹念なフィールドワークを通してのみ得られる貴重な一次資料や関係者へのインタビューを通してオリジナリティに富んだ考察を行っている。
- (3) クルアーン読誦学習テキスト『イクロ』の創案がもたらしたイスラーム基礎学習の変容を教育学的な視点から明確に論じている。
- (4) イスラーム基礎学習を支える若者と住民の重要性を実証的に明らかにし、宗教教育における担い手の多様性と地域がもつ教育力を解明している。
- (5) 草の根のムスリム・ネットワークが教育を変革する現代的な事例を提供している。

本論文に対して、審査委員からは以下のような疑問点と指摘がなされた。

- (1) 『イクロ』の創案とイスラーム学習施設の標準化は、従来のイスラーム基礎学習の目的に変容をもたらしたのではないか。緩やかな学習形態と道徳を重

別紙 1 - 2

## 論文審査の結果の要旨

視する人間形成のあり方から、勤勉さやクルアーンを正しく読むことへと学びの重点が変わったのではないか。

- (2) 新たなイスラーム基礎学習の導入とそれが組織化されることによって、失われた側面や負の側面はなかったか。
- (3) ジェンダーに関わる説明がないが、学生運動には女性も参加していたのか。
- (4) 標準化の背景には政府への配慮という側面があったのではないか。
- (5) 多様なイスラーム組織のなかでインドネシア・モスク青年交流会はどのように位置づけられるのか。クルアーン学習施設の普及とともに特定のイスラーム思想の伝道という側面はなかったか。

審査委員からのこれらの指摘に対し、博士学位申請者は研究の限界や課題についても十分に認識しており、質疑に対する回答も適切かつ妥当なものであった。また、指摘された課題は、今後の研究によって対処していくことが可能であるとした。

以上の結果を総合し、審査委員は全員一致して、本論文を博士（教育学）の学位に値するものと判断し、論文審査の結果を「可」と判定した。